全国障害者スポーツ大会の概要

１　主 催

(公財)日本パラスポーツ協会、文部科学省、開催地都道府県・市町村、その他関係団体

２　目 的

障がいのある選手が、障がい者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的とする。

３　開催時期及び開催期間

国民スポーツ大会本大会の直後を原則として、３日間（例年、概ね 10 月中）

４　参加資格

毎年４月１日現在で 13 歳以上の身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

５　実施競技（予定）

区分		競技数	競　技　名 （身：身体障がい者、知：知的障がい者、精：精神障がい者）
正式競技	個人競技	7	・陸上競技（身・知）　・水泳（身・知） ・アーチェリー（身）　・フライングディスク（身・知） ・卓球（身・知・精）［サウンドテーブルテニス（身）を含む］ ・ボウリング（知）　・ボッチャ（身）
	団体競技	7	・バスケットボール（知）　・車いすバスケットボール（身） ・ソフトボール（知）　・グランドソフトボール（身） ・サッカー（知）　・フットソフトボール（知） ・バレーボール（身・知・精）
オープン競技		広く障がい者の間にスポーツを普及する観点から有効と認められるものについて、主催者間で協議のうえ実施	

※　正式競技については、全国障害者スポーツ大会委員会で協議し、開催年の５年前までに日本パラスポーツ協会が決定。

６　大会規模等

・選　手　約 3,500 人　・役　員　約 2,000 人
・観覧者　約 43,000 人
・大会開催経費　約 20 億円
［第 19 回（2019 年）いばらき大会への長野県選手団派遣人数：70 人（選手 38 人、役員 32 人）］
※近県開催の場合は、更に選手枠約 7 人増

７　その他

(1)　全国障害者スポーツ大会は、昭和 40 年（1965 年）から行われてきた「全国身体障害者スポーツ大会」と、平成 4 年（1992 年）から行われてきた「全国知的障害者スポーツ大会」を統合した大会として、平成 13 年（2001 年）から国民体育大会終了後に、同じ開催地で行われている。

(2)　本県では、昭和 53 年（1978 年）「やまびこ国体」の開催後に、「第 14 回全国身体障害者スポーツ大会（やまびこ大会）」を開催して以来の開催となる。

別紙

全国障害者スポーツ大会実施競技等について

1　競技実施区分

競技ごとに、①性別区分、②年齢区分（個人競技のみ）、③障がい区分（障がい種別、程度）が定められている。

○年齢区分　身体障がい者　1部（39 歳以下）、2部（40 歳以上）
知的障がい者　少年（19 歳以下）、青年（20 歳～35 歳）、壮年（36 歳以上）
精神障がい者　年齢区分なし

2　障がい種別実施競技及び主管団体

区分	障がい区分／競技名	肢体不自由	視覚障がい	聴覚障がい	内部障がい	知的障がい	精神障がい	県主管団体（先催県の例）
個人	陸上競技	○	○	○	○※	○	×	陸上競技協会
	水泳	○	○	○	×	○	×	水泳連盟
	アーチェリー	○	×	○	○※	×	×	アーチェリー協会
	卓球	○	○	○	×	○	○	卓球連盟
	フライングディスク	○	○	○	○※	○	×	フライングディスク協会
	ボウリング	×	×	×	×	○	×	ボウリング連盟
	ボッチャ	○ 重度	×	×	×	×	×	ボッチャ協会
団体	バスケットボール	×	×	×	×	○	×	バスケットボール協会
	車いすバスケットボール	○	×	×	×	×	×	
	ソフトボール	×	×	×	×	○	×	ソフトボール協会
	グランドソフトボール	×	○	×	×	×	×	
	フットソフトボール	×	×	×	×	○	×	
	バレーボール	×	×	○	×	○	○	バレーボール協会
	サッカー	×	×	×	×	○	×	サッカー協会

※　内部障がい：ぼうこう又は直腸機能障害

3　実施種目

競　技	種　目
陸　上	・競走　50m、100m、200m、400m、800m、1500m、スラローム、4×100mリレー ・跳躍　走高跳、立幅跳、走幅跳 ・投てき　砲丸投、ソフトボール投、ジャベリックスロー、ビーンバッグ投
水　泳	・自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ（各 25m、50m） ・4×50mフリーリレー、4×50mメドレーリレー
アーチェリー	・リカーブ　（50m・30m、 30mダブル） ・コンパウンド（50m・30m、 30mダブル）
卓球	・卓球 ・STT（サウンドテーブルテニス）
フライングディスク	・アキュラシー　（5m、7m） ・ディスタンス　（座位、立位）